

令和 7年 4月 1日

(宛先)志摩市議会議長

会派名 桂政会

代表者氏名 山 本 桂 史



政務活動費実績報告書

志摩市議会政務活動費の交付に関する条例第7条の規定により、下記のとおり令和6年度政務活動費に係る調査研究、研修、要請・陳情活動の実績について報告します。

記

1 実績報告の期間

令和 6年 4月 1日～令和 7年 3月31日

2 調査研究、研修、要請・陳情活動の概要

・令和6年11月27日（水）～28日（木）

石川県珠洲市、輪島市、七尾市、羽咋郡志賀町等

目的：令和6年1月1日に発災した能登半島地震の被災地の確認及び、同年9月21日から23日にかけての豪雨による災害地を確認し、志摩市の地勢に置き換え考える。

内容：日本海に突き出た能登半島は、逆さまにすると太平洋に面した志摩半島の地形に極めて似た地形であり、産業的な構造も類似した面がある。今後、必ず起こると考える「南海トラフ大地震」の発災に備え、我々が備えなければならない教訓があると思われる。漁港、農地、観光地などの地場産業の状況、避難所及び仮設住宅や、ライフライン等の実情を確認していきたい。

・令和7年2月6日（木） 14時30分～16時00分

静岡県伊豆市 商工観光課・危機管理課・松原公園指定管理者

目的：観光施設と防災施設を両立した取り組み、松原公園津波避難複合施設「テラスセオレンジトイ」を視察。

内容：夏には首都圏などから多くの海水浴客で賑わう土肥海水浴場エリアに、3箇所の津波避難タワーを整備している。このエリアは、津波が発生しても周囲に逃げ場がなく、避難困難地域となっていた。伊豆市は「観光防災まちづくり」のシンボリックな拠点として整備計画を練り、鉄骨4階建て（高さ18.8m）で1階が物販スペース、2階が飲食やイベントスペース、3階がレストラン、4階が展望台となる避難タワーを建設。3階4階が避難場所となり1,230人を収容。市長は「津波避難タワーとしてだけの為に作るのはもったいない。普段から利用していなければ、いざという時に役立たない」と述べ、観光と防災を両立させることを目的とした施設「テラスセオレンジトイ」を2024年7月にオープンさせ運用開始している。また、『みなとオアシス土肥』として、全国で162箇所目にも登録された。志摩市においても、国府地区に3基の津波避難タワーを2024年に建設したが、平時の活用に課題をのこしている。

年間の利用客や建設規模は比較にならないと考えるが、志摩市でも平時における津波避難タワーの活用の参考にしたい。

※建設費用や年間を通じた観光客の利用頻度、運営や管理面、観光面の提供メニューなども参考にしたい。

※避難経路の整備状況も参考にしたい。

・令和7年2月7日（金） 13時30分～17時30分

東京都千代田区 全国都市会館 大ホール

目的：地方議会議員セミナー

「アフターコロナの自治体病院」 ～人口減少時代にどう対応するか～ を学ぶ。

- ・自治体病院の存在意義はどこにあるか
- ・激変する地域の医療をめぐる環境
- ・どのようにして自治体病院の経営をよくするか

講師：城西大学経営学部マネジメント総合学科 教授 伊関友伸氏

※共同開催：公益社団法人 全国自治体病院協議会

株式会社 自治体病院共済会